国士舘100周年創立記念祭

新体操部（男子）

新体操部の誕生

新体操部の前身は体操競技部の中に誕生した徒手体操班でありその後、昭和３５年１２月に体操競技部から独立し『徒手体操部』として新たなスタートを切った。当初の練習場は由緒ある大講堂で行われていた。

初代部長は川島恒吉先生で、その後は森秀先生、三橋喜久男先生、鈴木八郎先生、朝倉正昭先生、福井利勝先生と引き継がれ、創立１００周年の節目を迎えた現代は市村純先生に引き継がれている。

団体徒手体操から新体操へ

昭和４２年に女子新体操の国際大会が海外で開催されているとの情報をキャッチし、現地で視察を行い、それまで日本で行われていた『徒手体操』は『新体操』と改名し新たなスタートを切った。

男子新体操部を支えた黄金期

女子の改名に合わせて昭和４３年以降、男子徒手体操も『新体操』となり、新たな競技性を展開していくこととなる。その先頭をリードしたのが我々国士舘大学であった。団体徒手体操時代から現代までの全日本選手権大会団体競技での優勝は通算３３回、個人では個人競技がスタートした昭和４６年以降３０回を数えている。この数字はもちろん群を抜いたトップの数字である。

新体操界を支える卒業生達

全日本選手権大会をはじめ各大会での活躍、海外での演技発表で『国士舘大学』の名声を博した部員は卒業後、全国各地で指導者として活躍している。インターハイや選抜大会に出場した半数以上のチーム監督は国士舘大学の出身者である。

近年の男子新体操部

２００７年より山田小太郎（平成１０年度・体育卒）が監督として就任し、男子新体操部の新たな歴史がスタートした。２００８年に全日本選手権大会団体競技で優勝を奪還。当時の主将大舌俊平（平成２０年度・体育卒）は卒業後、国士舘高校で新体操部の監督を務め現在、数多くの優秀な選手を全国に送り出している。全日本選手権における個人競技では個人総合優勝を斉藤剛大（平成２６年度・体育卒）が２０１３年、２０１４年と連覇を果たした。

大会以外の活動ではメディア露出も多く、特に２０１０年にＴＢＳ系で放送されたドラマ『タンブリング』では演技指導や作中に登場する新体操チームの演技を本学の新体操部が演じたことで大いに話題となった。

また、海外での公演活動も多く、ヨーロッパを中心に毎年のように演技会に招待されている。行く先での演技会場では常に満員の観客を動員し、その注目度の高さは日本以上。ヨーロッパでは既に『ＫＯＫＵＳＨＩＫＡＮ』という名は体操関係者の中では一種のブランドのような扱いとなっているほどである。特に２０１５年世界中から体操の愛好家達が集う『ジムナストラーダ』での注目度の高さは群を抜いており、会場には入りきれない程の観客で溢れかえっていた。その後も２０１６年イタリア、２０１７年フィンランドと立て続けに招待され多くの観客を演技で魅了した。

国士舘創立１００周年のこの節目に、男子新体操部が日本や世界の中で活躍できている背景には、先人達が積み重ねた歴史の上に成り立っている。このことに心からの敬意を表すと共に、これからの１００年に向けて更に『チーム国士舘』としての団結力を高め、新たな夢に向かいその歩みを止めることなく進んでゆくことをここに宣言したい。

新体操部の主な成績

年度	競技成績		
	東日本学生新体操選手権	全日本学生新体操選手権	全日本新体操選手権
1989	団体優勝・個人優勝 内海祐吾	団体優勝・個人優勝 内海祐吾	団体優勝・個人優勝 内海祐吾
1990	団体優勝・個人優勝 内海祐吾	団体優勝・個人優勝 内海祐吾	団体優勝・個人優勝 内海祐吾
1991	団体優勝・個人優勝 石川憲重	団体優勝・個人優勝 小柳英海	団体優勝・個人優勝 内海祐吾
1992	団体優勝・個人優勝 後藤大輔	団体優勝・個人優勝 荒川栄	団体優勝・個人優勝 内海祐吾
1993	団体２位・個人優勝 川崎照彦	団体優勝・個人優勝 荒川栄	団体優勝・個人優勝 川崎照彦
1994	団体優勝・個人優勝 荒川栄	団体優勝・個人優勝 荒川栄・長田京大	団体優勝・個人優勝 長田京大
1995	団体優勝・個人優勝 朝野健二	団体２位・個人優勝 永野遷	団体２位・個人優勝 朝野健二
1996	団体優勝・個人優勝 鈴木康正	団体優勝・個人優勝 鈴木康正	団体優勝・個人優勝 朝野健二
1997	団体優勝・個人優勝 入倉修	団体２位・個人優勝 鈴木康正	団体優勝・個人優勝 朝野健二
1998	団体優勝・個人優勝 山田小太郎	団体優勝・個人優勝 山田小太郎	団体優勝・個人優勝 山田小太郎
1999	団体優勝・個人優勝 大瀧光司	団体２位・個人３位 大瀧光司	団体２位・個人３位 鈴木康正
2000	団体優勝・個人優勝 三浦正樹	団体２位・個人３位 大瀧光司	団体優勝・個人優勝 山田小太郎
2001	団体優勝・個人優勝 三浦正樹	団体３位・個人４位 竹下洋介	団体優勝・個人２位 三浦正樹
2002	団体優勝・個人優勝 前田樹孝	団体３位・個人優勝 前田樹孝	団体優勝・個人優勝 阿部公則
2003	団体２位・個人優勝 前田樹孝	団体２位・個人２位 前田樹孝	団体２位・個人２位 前田樹孝
2004	団体優勝	団体２位・個人優勝 脇田伸悟	団体２位・個人３位 脇田伸悟
2005	団体２位・個人優勝 奥雄太	団体４位・個人５位 佐原尚樹	団体２位・個人７位 佐原尚樹
2006	団体２位	団体２位・個人４位 佐原尚樹	団体２位・個人４位 奥雄太
2007	団体優勝・個人優勝 奥雄太	団体３位・個人９位 田中透	団体２位・個人５位 奥雄太
2008	団体２位・個人３位 奥雄太	団体２位・個人５位 奥雄太	団体優勝・個人９位 奥雄太
2009	団体優勝・個人７位 佐久間雄生	団体２位・個人１０位 田中透	団体２位・個人８位 田中透
2010	団体２位・個人６位 鈴木駿平	団体２位・個人１２位 佐々木智生	団体４位・個人１１位 佐々木智生
2011	団体３位・個人５位 篠原良太	団体２位・個人６位 弓田速未	団体８位・個人７位 斉藤剛大
2012	団体３位・個人２位 斉藤剛大	団体２位・個人３位 弓田速未	団体２位・個人３位 斉藤剛大
2013	団体３位・個人２位 弓田速未	団体２位・個人優勝 佐能諒一	団体３位・個人優勝 斉藤剛大
2014	団体２位・個人優勝 斉藤剛大	団体２位・個人７位 斉藤剛大	団体３位・個人優勝 斉藤剛大
2015	団体２位・個人２位 畠山可夢	団体２位・個人７位 畠山可夢	団体２位・個人９位 畠山可夢
2016	団体２位・個人３位 福永将司	団体２位・個人３位 佐能諒一	団体３位・個人３位 川東拓斗
2017	団体２位・個人３位 福永将司		

その他の大会　2016 全日本クラブ選手権大会　総合優勝

2008 年全日本新体操選手権大会団体優勝

Festival del sole 2016 in Italia①

2017 年度　国士舘大学新体操部

AGG 世界選手権大会 2017 での演技

Festival del sole 2016 in Italia②

2016 年全日本学生新体操選手権大会 団体①
写真提供　Ayako Shimizu

World Gymnastrada2015 in Finland

2015 年全日本新体操選手権大会 団体　仲間の声援に応える選手達
写真提供　Ayako Shimizu

2016 年全日本学生新体操選手権大会 団体②
写真提供　Ayako Shimizu

写真提供
Ayako Shimizu

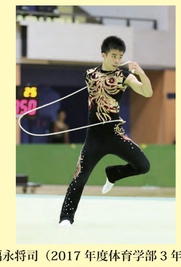
斉藤剛大（2014 年度体育卒）
2013、2014 年全日本新体操選手権大会
個人総合連覇

写真提供
Ayako Shimizu

佐能諒一（2016 年度スポ医卒）
2013 年全日本学生新体操選手権大会
個人総合優勝

写真提供
Ayako Shimizu

川東拓斗（2017 年度体育学部２年生）
2016 年全日本新体操選手権大会
個人総合第３位



写真提供
Ayako Shimizu

福永将司（2017 年度体育学部３年生）
2017 年東日本学生新体操選手権大会
個人総合第３位